豊田厚生病院 麻酔科専門研修プログラム

JA愛知厚生連
豊田厚生病院
TOYOTA KOSEI HOSPITAL

1．専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時

に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

- 本専門研修プログラムの特徴としては、西三河北部の地域中核病院において活躍できる専門医を育てるべく少人数専攻医に対して多症例数の研修を目指す。
- 地域中核病院において対応すべき症例は網羅されており、特に心臓血管手術麻酔に関しては本プログラム4年間のうち100症例/人を目標とする。連携施設として小児病院を含んでおり小児麻酔研修が可能である。また連携大学病院を含めたICU研修、基幹施設でのペインクリニック研修など幅広いサブスペシャリティへの研修移行も可能である。
- 専攻医1名あたりの麻酔管理経験症例の豊富さから問題解決能力に優れ、迅速な判断ができる、体の動く麻酔科専門医を養成する。専門医取得のための必須5領域経験症例数については、最初の基幹施設2年間の研修で達成可能である。
- 本研修プログラムは西三河北部地域医療に貢献できる人材を養成することを目的としており、研修終了後は希望があればプログラムを構成する施設に続いて就業を可能とするが、他の地域医療の担い手として希望する施設で就業することも可能である。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 原則的に2年間は，専門研修基幹施設で研修を行う。
- 残りの２年間に関しては専攻医のニーズに応じて、以下の研修を自由に組み合わせることができる。

① 大学病院における麻酔・ICU・ペインクリニック研修

② 小児専門病院における麻酔研修

③ 豊田厚生病院におけるペインクリニック＋麻酔研修

研修実施計画（例）

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	豊田厚生病院（麻酔）	豊田厚生病院（麻酔）	大学病院（麻酔・ペイン，ICU）	小児病院（麻酔）
B	豊田厚生病院（麻酔）	豊田厚生病院（麻酔）	大学病院（麻酔・ペイン，ICU）	豊田厚生病院（ペイン＋麻酔）
C	豊田厚生病院（麻酔）	豊田厚生病院（麻酔）	小児病院（麻酔）	豊田厚生病院（ペイン＋麻酔）

週間予定表

豊田厚生病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	術前外来 or手術室	術前外来 or手術室	術前外来 or手術室	当直明け 休み	術前外来 or手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	当直明け 休み	手術室	休み	休み
当直 /待機	麻酔待機		救急当直 （２年目まで）				

- 当直明け、深夜帯業務明けは確保保証。
- 毎日 17 時頃、翌日分の症例のカンファレンスを行う。

  予定手術患者は予め早期に「入退院支援センター」 → 「麻酔科術前外来」を受診

  しているため、術前情報が紙一枚にコンパクトにまとめられており、併存症に

  対する介入も万全に行われた状態で手術に臨むことになる。

  専攻医は担当症例についてプレゼンテーションを行う。
- 学会発表を年一回行うことを義務とする。はじめは地方会での発表を目指し、

  経験値を積んだところで統計学的考察を行う臨床研究に取り組む。

  倫理委員会のサポートで適切に臨床研究を行うことができる。

  どのような臨床研究を行ったら患者さんに良い診療をフィードバックできるか

  熟考し、指導医と相談して遂行する。
- 院内での勉強会、講演会や委員会が積極的に行われているので参加し見聞を広める。

  院外での勉強会、講演会も積極的に参加する。

専門研修基幹施設

JA愛知厚生連
豊田厚生病院
TOYOTA KOSEI HOSPITAL

豊田厚生病院　http://toyota.jaaikosei.or.jp/

研修プログラム統括責任者：上原博和　anest.trust@gmail.com

専門研修指導医：上原博和（麻酔・術前検査センター）

小島康裕（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

岩伶（麻酔・小児麻酔）

伊藤雅人（麻酔・集中治療・小児麻酔）

上甲利南（麻酔）

酒井博生（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

川口里奈（麻酔）

麻酔科認定病院（認定第 1456 号）

特徴：

・西三河北部における地域中核病院。豊田市の市民病院的役割を担う。

・地域中核災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院であり年間救急車受け入れ約 9,600 件を行っている。ドクターヘリによる搬送、ドクターカーの運用も行っている。

・成人心臓血管手術が年間 160 例程度あり少人数の専攻医でローテーション担当することで経験値が多く得られる。

・硬膜外麻酔、末梢神経ブロックについてはそれぞれ年間 100 例以上修練が可能である。

・Hybrid 手術室にて、EVAR・TEVAR・TAVI・WATCHMAN 症例が増えている。

・麻酔時緊急状態には「緊急コールシステム」により瞬時に指導医群がヘルプに駆けつける事が可能である。

・術前検査をスムーズに不備なく執り行うことが可能となる「術前検査センター」機能の運用と「麻酔科術前外来」に携わることにより、雑務を極力アウトソーシングしつつかつ術前評価不足無く患者把握が出来る。

・ペインクリニック専門医指定研修施設である。超音波ガイド下神経ブロック・X 線透視下神経ブロック・手術療法を積極的に取り入れており修練が可能である。

・麻酔科医主導で無痛分娩管理を行っており修練が可能である。

・日本緩和医療学会認定研修施設であり、緩和ケア講習会を定期的に開催している。麻酔科医が緩和ケアチームの一員として関わっており、がん性疼痛にも神経ブロック及び手術療法を積極的に施行している。

専門研修連携施設 A

浜松医科大学医学部附属病院

http://www.anesth.hama-med.ac.jp/AneDepartment/

麻酔科認定病院（認定第 158 号）

研修プログラム統括責任者：中島芳樹

専門研修指導医：中島芳樹（麻酔，ペインクリニック，小児麻酔）

御室総一郎（麻酔，集中治療）

五十嵐 寛（麻酔，医学教育，ペインクリニック）

鈴木 明（麻酔，医療安全）

栗田忠代士（麻酔，心臓血管麻酔）

秋永智永子（麻酔，産科麻酔）

谷口美づき（麻酔，産科麻酔，ペインクリニック）

八木原正浩（麻酔，小児麻酔）

青木善孝（麻酔，集中治療）

内崎紗貴子（麻酔）

成瀬 智（麻酔，産科麻酔）

川島信吾（麻酔，心臓血管麻酔）

木村哲朗（麻酔，ペインクリニック）

小林賢輔（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）

植田 広（麻酔）

鈴木興太（麻酔，ペインクリニック）

鈴木祐二（麻酔，集中治療）

山口智子（麻酔，ペインクリニック）

桂川孝行（麻酔，集中治療）

大嶋進史（麻酔，ペインクリニック）

専門医：　今井　亮（麻酔）

西本久子（麻酔）

川島若菜（麻酔）

和久田千晴（麻酔，小児麻酔）

大竹麻美（麻酔）

伊藤純哉（麻酔）

伊藤桃依（麻酔）

特徴：豊富な指導医数の誇る大学病院を中心に、手厚い指導のもと安心して研修ができます。ペインクリニック、集中治療、心臓血管麻酔などのサブスペシャリティーの研修施設で高難度の麻酔・全身管理および術後疼痛管理、麻酔科医が中心の集中治療部での重症患者管理、ペインクリニック、緩和医療、小児麻酔、産科麻酔・無痛分娩の研修ができます。麻酔を中心にバランスよく効率的に関連分野の専門医を取得することができ、医療安全、シミュレーション教育を専門とする麻酔科医師も在籍しているため研修中に学ぶ機会も多いです。

研修後半からは、麻酔科領域の大学院に進学し専門医研修をしながら研究することも可能です。

専門研修連携施設 A

名古屋市立大学病院

http://www.ncu-masui.jp/

研修実施責任者：祖父江和哉　　kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：祖父江 和哉（麻酔，集中治療，いたみセンター）

田中　基　（麻酔，周産期麻酔）

杉浦 健之（麻酔，いたみセンター）

徐　民恵（麻酔，集中治療，いたみセンター）

田村 哲也（麻酔，集中治療）

太田 晴子（麻酔，集中治療，いたみセンター）

加藤 利奈（麻酔，いたみセンター，周産期麻酔）

上村 友二（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

佐藤 範子（麻酔，いたみセンター）

佐藤 玲子（麻酔，いたみセンター）

横井 礼子（麻酔，周産期麻酔）

青木 優佑（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

中西 俊之（麻酔，集中治療）

中井 俊宏（麻酔，集中治療，救急医療）

麻酔科認定病院番号：55（西暦 1968 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

大学病院として高度先進医療を提供するとともに，名古屋都市圏の中核医療機関として地域医療に貢献している．教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し，幅広い分野での研修環境が整っている.小児から成人まで豊富な症例があり,小児麻酔,心臓血管麻酔,超音波ガイド下神経ブロック,ハイリスク妊婦の周産期麻酔など幅広く研修できる.同時に,集中治療（closed-ICU，PICU）の研修を通して,麻酔から ICU までシームレスな管理を学ぶことができる.また、いたみセンター,無痛分娩センターにおいても,希望に応じて専門的な研修が可能である.その他,病院併設のシミュレーションセンターでは,年数回のハンズオン講習を実施しており,シミュレーターを用いた経食道エコーなどの練習が随時可能である.

専門研修連携施設 A

あいち小児保健医療総合センター　http://www.achmc.pref.aichi.jp/

研修実施責任者：　宮津　光範

専門研修指導医：　宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）

山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）

加古　裕美（小児麻酔）

小嶋　大樹（小児麻酔、シミュレーション医学、臨床疫学）

渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）

青木　智史（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）

北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）

一柳　彰吾（小児麻酔、QI）

専門医：　川津　佑太（小児麻酔、シミュレーション医学）

麻酔科認定病院番号：1472

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。産科麻酔領域では帝王切開の麻酔に加え、硬膜外（無痛）分娩も経験できる。

＜当センターの強み＞

A.　国内および海外小児病院出身の小児麻酔エキスパートから直接指導が受けられる。高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育

プログラムを実践している。英語の教科書を使ったフェロー主体の症例ベースの勉強会を毎週行っている。

B.　小児麻酔技術の習熟に最適な泌尿器科や眼科の短時間手術症例が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。エコーを用いた血管穿刺、仙骨硬膜外麻酔や末梢神経ブロックに力を入れている。MRI・CT 等検査の手術室外鎮静も麻酔科が行っている。

C.　新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が近年増加中であり、症例数は東海北陸地方トップクラスである。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは 3 ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。三次元コンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に 3 台の小児用 EXCOR を保有しており、心臓移植待機目的の LVAD 管理を積極的に実施している。

D.　臨床研究および英文論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。年間を通じて疫学統計セミナーを開催しており、フェローは臨床業務を離れて毎回受講可能である。英文論文を執筆したいフェローにはスタッフが投稿まで責任をもってサポートする。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「博士（医学）」の学位取得が可能である。

E.　東海北陸地方最大規模となる 16 床の PICU は、小児集中治療のエキスパートらにより専従管理される closed-ICU である。ドクターヘリによる救急搬送も近年増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く重症患者を集めている。2024 年度から、県営名古屋空港を拠点とした小児重症患者専用ドクタージェットの運用が開始され、北陸地方からの転院搬送が増加傾向である。小児 ECMO センター機能を有し

ており、ECMO 症例数は全国で最も多い。PICU にも麻酔科医が複数名在籍しており、シームレスな PICU 研修が可能である。

専門研修連携施設 A

藤田医科大学岡崎医療センター　https://okazaki.fujita-hu.ac.jp/

麻酔科認定病院番号：1963

研修プログラム統括責任者：望月利昭 toshiaki.mochizuki@fujita-hu.ac.jp

専門研修指導医：　望月利昭（麻酔・小児麻酔・心肺蘇生法・救急医学）

鈴木万三（麻酔）

柴田純平（麻酔・ペインクリニック・集中治療）

小川慧（麻酔・ペインクリニック）

麻酔科認定病院（認定第 1963 号）

特徴：

・西三河南部東二次医療圏における地域医療支援病院。岡崎市西部と幸田町の市民病院的役割を担う。

・地域災害拠点病院、救急告示病院、地域がん診療連携拠点病院であり、救急車を年間約 6,300 件受け入れている。

・成人心臓血管手術を本年度は年間 50 例程度予定している。ナースプラクティショナーの協力による診療補助、薬剤部の協力による医薬品無菌調整を活用して負担の少ない心臓麻酔研修が可能である。

・末梢神経ブロックについては年間 100 例以上修練が可能である。

・Hybrid 手術室があり、将来的に EVAR・TEVAR・TAVI 症例の麻酔を行う予定である。

・研修１年目では、研修開始から３ヶ月～一年間は麻酔科専門医が全身麻酔維持中もマンツーマンで指導にあたるため、研修初期に多い麻酔科的診療トラブルに的確に対応できる。これを通して麻酔科診療トラブルの回避、解決方法を安全に身につけることができる。

・「麻酔科術前外来」に携わることにより、術前評価の不足無く患者把握が出来る。

・月に４回程度外勤日を設けてあり、外勤病院も確保している。市中病院と遜色ない収入が期待できる。

専門研修連携施設 A

愛知医科大学病院　http://aichi-med-u-anes.com/

研修実施責任者：野手　英明

専門研修指導医：梶浦　貴裕　　（麻酔　小児麻酔　集中治療）

村松　愛　　（麻酔　産科麻酔　集中治療）

佐藤　航　　（麻酔　集中治療）

髙橋　徹朗　　（麻酔　集中治療　ペインクリニック）

梶田　裕加　　（麻酔　集中治療　救急）

稲垣　友紀子　（麻酔　集中治療）

中村　健人　　（麻酔　）

新井　健一　　（麻酔　ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：99

施設の特徴：

脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科などの全ての外科系の手術を経験することができ専門医研修で必要な症例を経験することができます。TAVI，Mitraclip などの症例も行っており，カテーテル治療における麻酔経験を積むことができます。

日本集中治療医学会により集中治療専門医研修認定施設であり，集中治療専門医の育成を行います。

GICU での術前管理，術中麻酔管理，ICU での術後全身管理を始め，院内における敗血症などの重症患者管理を行います。

当院では若い先生方に資格をとっていただきたいと考えており積極的にバックアップします。具体的には JRACE, JBPOT，心臓血管麻酔専門医，集中治療専門医，ペインクリニック専門医など，勉強会を含め試験対策などみんなで学ぶ環境があります。

募集定員

7名

4. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，FAX，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

豊田厚生病院　麻酔科　代表部長　上原博和

〒 470 - 0396

愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL 0565-43-5000

FAX 0565-43-5100

E-mail anest.trust@gmail.com

Website http://toyota.jaaikosei.or.jp/

1　麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

(ア)　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

2　専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

3　専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修２年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1 ～ 2 度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

4　専門研修の評価（自己評価と他者評価）

①　形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバック

を行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

5 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

6 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

7　専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

①　専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は, 連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない. 研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は, それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

②　専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③　研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

地域医療への対応

本研修プログラムの施設には，大学病院以外に地域医療の中核病院としての豊田厚生病院，あいち小児保健医療総合センターなどの連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設において麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

また、機会があれば西三河北部の僻地病院（足助病院など）にも専門研修指導医とペアで適宜足を運び、地域医療への麻酔診療提供を考慮する。